

「そろそろ衣替えしなきゃ」

私 が言うと、小学生の息子から「それならカーテン替えたいな」という謎の答えが返ってきた。「衣替え」と「模様替え」を混同しているのか。「衣替え」は「季節に応じて衣服を替えること」だろう。

しかし、妙に納得した。無理もない。息子は、冬でも「シャツ一枚と半ズボンで過ごす「半そで半ズボン君」なのだ。季節によって服を替えるという発想はない。

「衣替え」ということばが、やけに気になった。そして、ふと思い出した。

先日、ある携帯ショップで「スマホを衣替え!」という文言を見た。スマホのカバーや待ち受け画面を替えることを指していたようだ。もしかして、昨今、衣替えの対象は、衣服だけではないのか。

『日本国語大辞典』によると、衣替えの歴史は、平安時代にまでさかのぼる。

中国から伝わり、「更衣」と呼ばれ、年2回、夏と冬の装束を入れ替える貴族の行事だった。江戸時代になると、旧暦4月1日に夏の衣に替え、10月1日に冬の衣に替える宮中行事が、民間にも普及し、衣服や調度の家具の類まですべて季節に合ったものに替えていたようだ。つまり、江戸時代の衣替えの対象は衣服だけではなくたの

だ。それならば「カーテンを衣替え」発言もあながち間違いではない。

慌てて、国語辞典を片っ端からひく。

やはり、多くの辞典では衣服と記されている。しかし『三省堂国語辞典』では「②見かけ・性格などを変えること」と定義され“商店街の衣替え”という用例が載っている。たしかに「旅館がクリスマスに向け衣替え」なども見る。さらに興味深いことに“労働金庫法衣替え”という用例まで載っていた。要は、法律の改正のことだが、ここまでくると季節も何も無い。衣替えは、日本伝統の“季節の行事”とばかり思っていた身としては、少し物悲しい。ことばの解釈は移り変わるものだが、四季を愛する日本人として「季節感」や「新しい季節へのワクワク感」は、失ってほしくない切に願う。

さて、6月1日は、多くの学校で制服が冬服から夏服に替わる。衣替えとは無縁のわが家の半そで半ズボン君も、来年は中学生。いよいよ制服と衣替えデビューだ。冬服に身を包むわが子を想像しつつ、いつかこの半そで半ズボンの山も懐かしくなるのかなと、ちょっと切なくなってしまう。

来年は、カーテンの衣替えでもしようか。

藤井まどか(ふじい まどか)